

レンコン都市 土浦

6 班 太田聖 杉安和也 津波古陽香 林利充 矢萩雅広

1 土浦市の概要

土浦市は東京の北東約 60km、成田空港の北西約 40km に位置する。東に霞ヶ浦、西には筑波山を望む自然環境にも恵まれた、人口約 135,000 人、面積約 82k m² の地方都市である。



図 1：土浦市の位置

土浦市役所 Web ページより

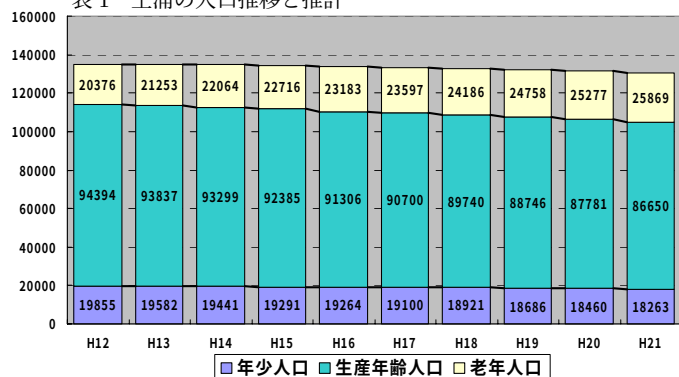
水戸街道や霞ヶ浦を利用した水運など、水陸の交通の要所である城下町として古くから栄え、近年においても国道 6 号線や国道 125 号線など、幹線道路が集中する茨城県南地域の業務核都市である。しかし、モータリゼーションの拡大により、入り組んだ中心市街地よりも大通り沿いに商業が集中し、中心市街地の空洞化が進んでいる。その結果、市全体としても衰退の一途をたどっており、その対策が求められている。

2 土浦の現状分析

2-1 人口

土浦市は、平成 16 年 4 月 1 日現在 134,050 人である。総人口は平成 14 年以降減少し始めていて、住民基本台帳を基に算出された平成 17 年以降の推計でも総人口は減少するという予想がされている。

表 1 土浦の人口推移と推計



2-2 交通

かつて中心市街地付近を通っていた幹線道路のバイパスが郊外を走り、その沿道サービスとして大規模駐車場を備えた大型ロードサイドショップが次々に出店している。

中心市街地衰退の対策として、土浦商工会議所は、中心市街地を循環するコミュニティバス「キララちゃん」を導入している。

キララちゃんデータ

- 料金
大人 100 円(小学生 50 円)
1 日券 300 円
- 路線
市役所循環・市民会館循環・霞ヶ浦循環の 3 路線
- 特徴
指定店で買い物をしたときに還元される、地域通貨「キララ」を利用できる。



しかし、土浦市全体としてみたときに、公共交通や交通ネットワークが充分整っていないため、自家用車の利用が拡大し渋滞を引き起こしている。

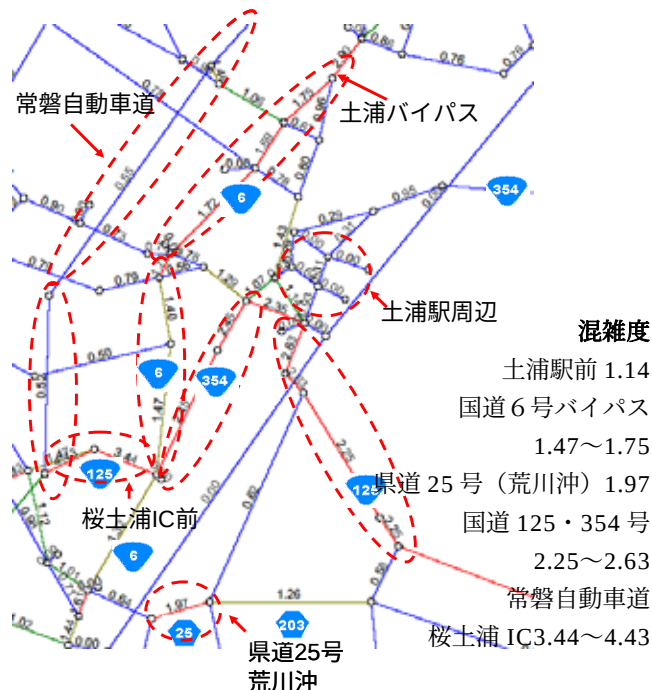


図 2：JICA Strada, CUET による道路の混雑状況の分析

2-3 産業

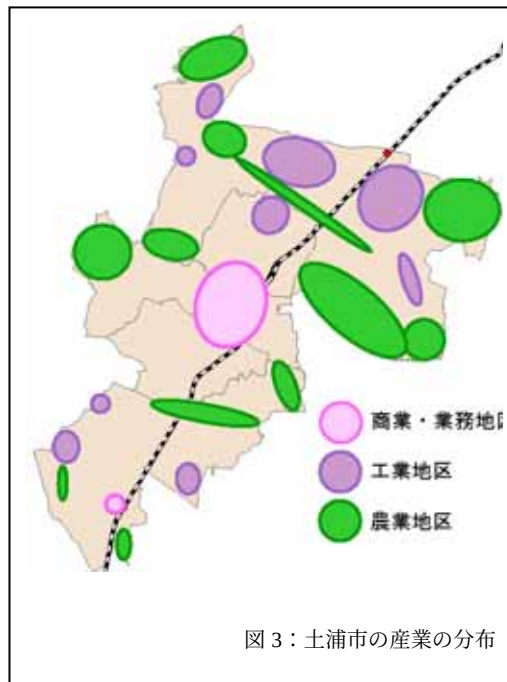


図3：土浦市の産業の分布

2-3-1 商業

中心市街地とされる土浦駅前には西友、小網屋、丸井、東武ホテル等の大型店の撤退によって、空洞化が進んでいる。空き店舗や低未利用地が多く見られ、暫定的に駐車場として利用されている所も多い。再開発ビル URALA の完成によって、一部でにぎわいを取り戻した一方で、駅からの動線が URALA に集中しているため、周辺部への回遊が減少し、結果としてモール 505 や商店街の衰退に拍車をかけているのが現状である。

神立駅周辺の商業施設としては、隣接するかすみがうら市にある千代田ショッピングモールがある。神立駅前は昔ながらの商店街が建ち並んでいるが、ここでも空き店舗が目立っている。

荒川沖地域では国道6号線、354号線、学園東大通り等の幹線道路沿いを中心に、ジョイフル本田を始めとして、ロードサイドショップが数多く進出している。

2-3-2 工業

神立地域は工業団地を中心とする製造業が盛んである。日立製作所をはじめ様々な企業がここに工場を構えている。

2-3-3 農業

農業においてはレンコン栽培や花卉栽培が盛んであり、特にレンコンの生産量は日本一である。霞ヶ浦の沿岸には蓮田が広がっている。現在、生産効率向上と住宅や道路開発のため耕地整理が進められている。

2-4 住宅

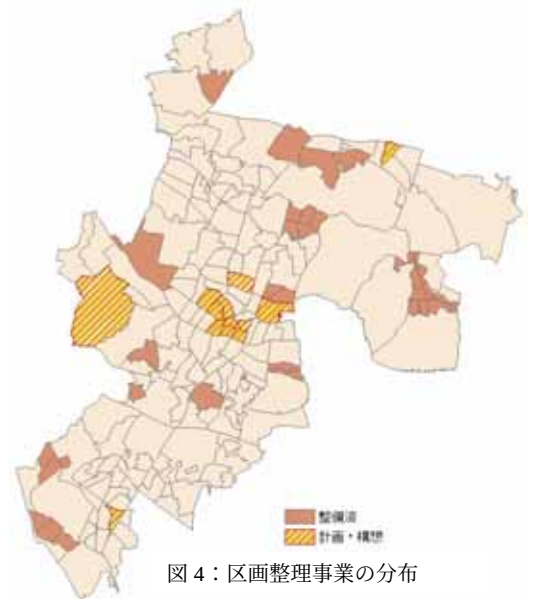


図4：区画整理事業の分布

土浦市では大小数ヶ所において土地区画整理事業が行われている。しかし、瀧田土地区画整理やおおつ野ヒルズのように、住宅や産業の定着があまり進んでいない地区も見られ、スプロール状に低未利用地が広がっているのが現状である。このような地区は交通アクセスや地域施設が整備されていないという問題を抱えている。市の人口が横ばいから減少に転じようとしている現在、どのようにしてこれらの事業を進めていくかが課題である。

逆に土浦駅周辺では、比較的にまとまった低未利用地の再開発としてマンション建設の構想が相次いでいる。原因としては、地価の下落や JR 常磐線のサービス向上が挙げられる。JR 常磐線は今年開通した競合路線である TX に対抗するため、ダイヤ改正や東京駅までの延伸を決定し、都心へのアクセス向上が見込まれる。これらのことから民間開発業者も住宅需要が増加するという見通しを立て、大型店の跡地をマンション建設の候補地としている。例えば駅前北地区では、新図書館と 14 階建てマンションの並置計画がある。

2-5 福祉

土浦市は市民が適切な福祉サービスを受けることができるよう、「ふれあいネットワーク」が確立された都市を目指している。ここでは様々な福祉の中から幼児養育、高齢者福祉に着目して現状を分析する。

2-5-1 幼児養育

土浦市は平成 11 年 3 月に『土浦子育て支援総合計画 2010 つちうらこどもプラン』を策定し、支援の充実に努めてきた。

また平成 17 年 7 月には「次世代育成支援対策推進法」、「児童福祉法の一部を改正する法律」が交付された。この法律が公布されたことや、少子化のさらなる進行という状況を踏まえ、地域ぐるみで連携・共同し、未来を担う子供が健やかに成長していけるような環境を整備するために、『土浦市次世代育成支援行動計画 つちうら新こどもプラン』を策定する。

こうした流れの中で土浦の幼児養育はどの程度充実しているのか、また地域によって充実度に偏りが無いか分析する。

図5は地域ごとにある幼稚園、あるいは保育所一施設あたりの幼児数（4歳から6歳）を示している。幼稚園には一学級当たり幼児数／設置基準35人以下（原則）という基準が設けられている。これにより目安として一施設当たりの幼児数が100人を超える場合、求められているサービスが行き届いていないと推定できる。図を

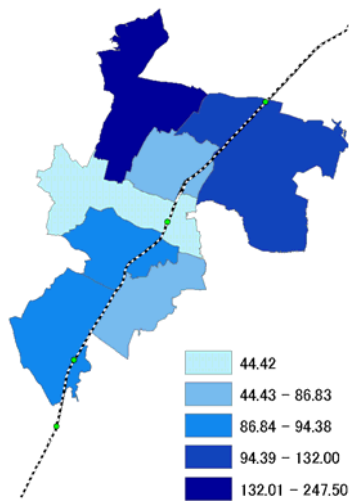


図5：各地域における1施設当たりの幼児数

を見ると一中、二中、三中、四中、六中地域、は比較的施設が充実しているといえる。しかし五中地域、都和中地域はいずれも100人を超えている。特に都和中地区においては245人という結果が表れている。このことから、特に郊外の育児サービス供給が現在求められているといえることができるだろう。また土浦駅周辺や荒川沖駅周辺においても、現在高層マンション建設・建築計画が進められていることを考えると、更なる育児サービスの充実が必要である。

2-5-2 高齢者福祉

高齢者福祉は、高齢化がなお進む日本において熟考しなければならない重大な問題である。さらに土浦市は今後、高齢者の居住需要が見込まれ住環境整備が必要となる。そこで土浦の高齢者福祉を分析する。

図6は各地域の高齢者1000人に対する、高齢者福祉施設(老人福祉施設、特別養護老人ホーム、施設介護サービス、介護老人保健施設、認知症老人グループホーム)の数を表している。これによると二中地区は施設が比較的充実しているといえる。反面一中地区や三中地区、五中地区は施設の数が比較的少ないことを表している。特に一中地区や、五中地区は駅前マンションの

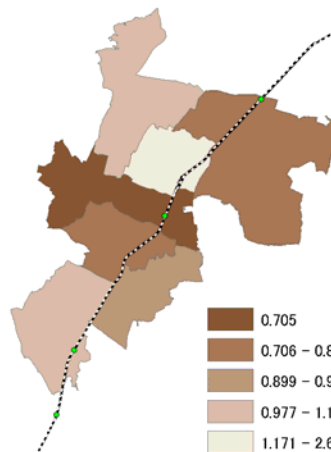


図6：高齢者1000人に対する福祉施設数

新設やおおつ野ヒルズの開発が進行していることを考慮すると、今後高齢者数が増加することが考えられる。また公共交通（バス）が発達していない土浦市の現状を考えると交通弱者である高齢者は他地域の施設を利用できない。以上から公共交通の整備とともに高齢者福祉施設のよりいっそうの充実が求められている。

2-6 文化

2-6-1 歴史

土浦市には様々な史跡や文化財がある。亀城公園をはじめ、旧水戸街道沿いの宿場町や蔵造りの歴史的建造物、上高津の貝塚など観光資源になりうるものが数多くある。

2-6-2 自然

つくば市との市境付近には穴塚と呼ばれる関東平野最大級の里山がある。ここではNPOによる自然保護活動が盛んである。



写真1：霞ヶ浦

霞ヶ浦は琵琶湖に次ぐ国内で第2位の大き

さの湖で、ヨットをはじめとするウォータースポーツ、フィッシング、サイクリング等のレジャーが盛んである。沿岸にはスポーツ施設・自然観察施設・国民宿舎・レストハウスなどを総合的に整備した霞ヶ浦総合公園がある。また、霞ヶ浦の自然環境について学べる、霞ヶ浦環境センターが2005年にオープンした。

2-6-3 イベント

市を代表するイベントとして、4月中旬に開催されるかすみうらマラソンがある。この大会は、国際盲人マラソン大会もかねている。湖を見ながら走るコースは全国のランナーから人気を集めている。また、10月上旬に開催される土浦全国花火競技大会は、大正14年から続いており、全国の煙火師が日本一の技術を競う全国屈指の競技大会である。その他年間を通して大小さまざまなイベントが行われている。

2-6-4 文化の考察

歴史・自然・イベントのそれぞれに共通して言えることは、個々で興味深いものが数多く存在するが、空間的にまた時間的に散在している。観光資源を結ぶネットワークが不足していることや、一体的なPR活動が行われていないため、特色を活かしきれていないといえる。恵まれている観光資源の魅力を押し出すための対策が必要であると思われる。

3 課題抽出

ここまで5つの分野に分けて現状分析を行ってきた。これらを整理すると、交通は公共交通や道路網が整備されておらず、不便な交通環境であること、産業はモータリゼーションによる中心市街地の空洞化、住宅はスプロール状に分布している土地区画整理事業、福祉は地区間の格差、文化はそれぞれの資源・イベント等が独立していることが課題である。ここで、土浦市をレンコン、課題を穴にそれぞれ例えるとレンコンには5つの穴が空いていることになる。

4 テーマ設定

我々は土浦市の現状分析・課題抽出を行った上でテーマを

穴が無い!?連魂都市土浦

～ソフト面の充実～

と設定した。

穴を埋めるということは、各部野の課題を解決することである。

さらに、連魂都市とはハード面だけではなく、「魂」（ソフト面）の充実と各分野の「連」携がとれた都市という意味である。

5 今後の流れ

第1回中間発表後は、交通や住宅といった各分野の課題の解決法の模索、JICA STRADA・CUETを用いた更なる分析、先行事例の調査等を中心に活動していく予定である。

[参考文献]

土浦市ホームページ(2005/12/20)

<http://www.city.tsuchiura.ibaraki.jp/>

i タウンページ(2005/12/18)

<http://itp.ne.jp/>

かすみがうらマラソン大会オフィシャルホームページ
(2005/12/17)

<http://www.city.tsuchiura.ibaraki.jp/section/kyouiku/6006/marathonHP/>

おおつ野ヒルズ(2005/12/19)

<http://www.kawashotsuchiura.web.sh.idc.jp/>

土浦全国花火競技大会(2005/12/21)

<http://japan-fireworks.com/guide/tsuchiura.html>